

- 1 会議名 令和元年度 第1回安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会 総会
2 日時 令和2年5月22日(金)付 書面協議

協議事項等

協議事項

- (1) 専決処分の承認を求めることについて

【資料1:P.1】

当初予算から歳入歳出共8,225千円の減額。主な理由は運行費にかかる国庫補助増額により市負担金が減少したため。

《承認》

- (2) 令和元年度安曇野市地域公共交通協議会事業報告について

【資料2:P.5】

あづみん・定時定路線については例年通りの運行を実施。協議会部会においては市民意見のあった巡回バスの検討やシミュレーションの実施。高校の利用者に対し定時定路線に関するアンケートの実施。

全ての70歳以上の市民にあづみん利用案内の送付。あづみ野FMを通じあづみんの紹介。出前講座による利用促進活動の実施。

《承認》

- (3) 令和元年度安曇野市地域公共交通協議会決算について

【資料3:P.7】

国庫補助金が増額されたこと、運行管理費において職員人件費や施設修繕費が見込みより少なかったことなどから協議会としての支出が抑制され、決算額は入出とも当初予算より8,337,900円少ない、65,576,100円となった。

《承認》

- (4) 地域間幹線系統確保維持計画「四賀線」(案)について

【資料4:P.9】

地域間幹線系統である「四賀線」は、松本バスターミナルを拠点に安曇野市内2停留所(大口沢、中谷)を經由して、四賀支所までを結ぶ路線である。「四賀線」は存続・維持のため国庫補助を受けながら運行している状況であり、また、その補助金受給には本計画(案)を関係する協議会に毎年協議・承認をもらう必要がある。

《承認》

- (5) 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

【資料5:P.13】

あづみん運行には国庫補助を活用している。本補助事業は、交通不便地域の移動確保を目的とし、且つ、本地域間幹線バス系統などにアクセスできるものが対象となる。あづみん運行については上記地域間幹線系統「四賀線」にアクセスできるということで本補助金を受けているところである。国庫補助申請の際は、毎年その事業計画を作成し、協議会において協議・承認を得る必要がある。

《承認》

(6) 安曇野市地域公共交通協議会規約の改正について

【資料 6 : P. 17】

改正部分：会員報酬について明記、幹事会・部会設置根拠を追加、協議事項の公開非公開の明記、公共交通会議設置要綱との整合、不用箇所を整理

《承認》

(7) 令和 2 年度運行計画の変更について（あづみの周遊バス、中房線）

【資料 7 : P. 27】

新型コロナウイルス感染予防に伴い、本路線沿線の各施設が閉鎖されたことに併せた一定期間の運行を取りやめるもの。当初予定は 4 月から運行（令和 2 年 2 月総会にて承認済）の予定であったが、7 月からの運行に変更したい。再度承認をいただきたい。

《承認》

2 報告事項

(1) 部会の設置について

【資料 8 : P. 33】

巡回バスと現公共交通の問題点について引き続き検討し、あるべき安曇野市の公共交通について模索し、具体的改善事項を総会に提案する。ただし新型コロナウイルスにより部会開催の見通しが立たない状況のため、次年度以降に検討期間がずれ込む可能性がある。

(2) 各路線運行実績報告について

【資料 9 : P. 35】

（あづみん、定時定路線、あづみ野周遊バス、信州まつもと空港シャトル便、中房線）

●あづみん、定時定路線

- ・あづみんは元年度の乗車人数は 86,681 人。前年度より約 400 人の増加。年度最後までは前年度を上回る形で来ていたが新型コロナウイルスの関係で特に 3 月の利用が大幅に減少した。
- ・実利用者数は 2,396 人と前年より 31 人減少。
- ・利用料金 300 円の方と 100 円の方との割合は、100 円の方が前年より 0.8 ポイント増加。
- ・年代別利用者数では、50 歳以上の方の利用が前年より増加している。
- ・定時定路線は元年度の乗車人数は 13,476 人と前年より 2,041 人の減少。高校生の利用者数減少に併せ新型コロナウイルスによる休校日が増加したことが大きな理由。

●周遊バス、松本空港シャトル便、中房線

- ・周遊バスは年間 15,447 人の利用（前年比+7.7 ポイント）。松本空港シャトル便は年間 1,323 人の利用（前年比+44.3 ポイント）。中房線は年間 19,145 人の利用（前年比+8.57 ポイント）。